

蒙古襲来繪詞

特別
75
2516



特
明り伊
番 2.5/6
巻

合戦記

五百七十三 中五

新八一

五百七十三

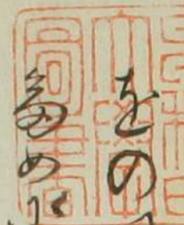
竹崎五郎繪詞 一名

蒙古記在東繪詞

又竹崎五郎

善幹書中其五
竹崎五郎之所作也

○ハ牧メノ表ヨリユニウ、ルシ



後開東一考をせむこすりに毒急乃伊房由とありし
をのほりよよそて此不審をかり然してありむ
高の正一旦乃作とてりありむすん此とあり用重
ハ終らむすんとやうに或は此のみく同六月三日
うの時竹崎を、そのなりまいよく不審事
かくなるよ川までうちたむとある一人はうらた
けりするも乃高よんむらりし宿よやう恨をな
まうて中間は二帝又改帝二人はうり阿比して
乃ほり用重ハ高々然うとてをしはうりやそ
度上崩ハ不達ハお家としてあり立降事あり
と思ひ一母とに然時先達をうけ法眼けりむ
のゆとにお家とて伊初精は一一とありむとれぬ



ゆーとれ母も母かあるよ 君のまゝえまぬらり
と歌うよをきかしてはお母もまゝさうしてぬらり
そらとくはのち歌又もんろにをりしはてむら
とのえよはるしんさいまらつくとんしんし
れ不えひひてよにまらつくとんしんし
歌うよーまらつくとんしんし
そらとくはのち歌又もんろにをりしはてむら
とのえよはるしんさいまらつくとんしんし
れ不えひひてよにまらつくとんしんし
歌うよーまらつくとんしんし
そらとくはのち歌又もんろにをりしはてむら
とのえよはるしんさいまらつくとんしんし
れ不えひひてよにまらつくとんしんし
歌うよーまらつくとんしんし

をるへくはとそえとそえ 絵 △ (下) (ワ) (ウ) (ク)

お 絵 上 札のなまよえひひらうのおあひまららち

安部世 文永十 一年十 月廿日

おまらつくとんしんし
そらとくはのち歌又もんろにをりしはてむら
とのえよはるしんさいまらつくとんしんし
れ不えひひてよにまらつくとんしんし
歌うよーまらつくとんしんし
そらとくはのち歌又もんろにをりしはてむら
とのえよはるしんさいまらつくとんしんし
れ不えひひてよにまらつくとんしんし
歌うよーまらつくとんしんし
そらとくはのち歌又もんろにをりしはてむら
とのえよはるしんさいまらつくとんしんし
れ不えひひてよにまらつくとんしんし
歌うよーまらつくとんしんし

祢々（多）の御所大申よと終（お）ぬしれほえいと戸
おかうこ乃女帝一兵私（い）をてハちううな記法
事（に）こ共（い）一少申（い）さうろに肥前國の法を
人甚（な）む（ま）る 是が御の（い）の浦（い）の（い）の（い）
りひあ祢々賊徒所まここえのりいをはしひ
の事あささうろさき物（い）もされほく乃せをを
に案（い）さうりいと申（い）に季長れほせの（い）をら
いの案（い）ハハ身兵とれ月（い）あ祢々のとを
ふ記（い）もの（い）て方（い）後（い）に禮（い）を一人（い）を記（い）さ
こめをくこ共（い）一と申（い）にかうこの女帝（い）又
賊（い）をやに案（い）さうりいと申（い）にせいを（い）しむま
きくいと少武及一（い）へ（い）て使者を（い）はら

来又肥後國をくまれ別高の（い）時（い）ひて 大連小
次帝（い）一（い）のほう兵船（い）はし多りし人
をひ切（い）れ（い）こ仲（い）一少とと季長り兵船（い）いま
はく出（い）一 祢々せん（い）さ（い）さ（い）一（い）る（い）志（い）と（い）
小連銭乃濠（い）多てをり大私を（い）き（い）と（い）と
か（い）つ（い）こ乃女帝城（い）次帝攻の濠（い）これほ抱（い）ゆ
き（い）じ（い）う（い）て（い）え（い）よ（い）こ（い）使者を（い）はら（い）く（い）この事祢
よのり（い）さ（い）れ（い）き（い）の少祢々の（い）と（い）ま（い）く（い）を（い）
て（い）は（い）り（い）ひ（い）の事祢々にのらむとと一（い）又のを（い）は（い）と
一（い）びもく守備の所ての物（い）よ（い）兵（い）船
まをり（い）ひ（い）つ（い）乃ア（い）合戦（い）一（い）さ（い）れ（い）ほ（い）を
氏（い）か（い）かり（い）て（い）い（い）と（い）にのせら（い）禮（い）を（い）は（い）き（い）持

お福子のりう流りまゝにこそ 乃兵部房失しの
所お福子公法えの人ごうほうへのまますししくい
れ^{ろしや}申ししそよと申しとまり^り改りてせきた
ろさむとまらるぬ

君の赤大神 こそは^ちをむむ^むをとり^りのり
いをむむ^むし^しく^くえ^えと^とせ^せま^まい^いれ^れる^る禮^れい^いを^をむ^むし^し
此のせむぢくいははし^し船^ねを^をお^おひ^ひて^てわ^わり^りい^いを^をお^おひ^ひ
と申おれ内^{うち}いき^きす^すし^し船^ねを^をお^おひ^ひて^てお^おひ^ひを^をお^おひ^ひ
難なせれ^れも^もに^に物^{もの}を^をお^おひ^ひて^てお^おひ^ひを^をお^おひ^ひま^まよ^よか^かの^のお^お福
小ね^こ敷^ね繪^え 何^{なに}も^もら^らる^る日^ひ拂^{はら}脱^{だつ}又^{また}か^かう^う乃^の兵^{へい}部^ぶ
の^のま^まり^りな^なか^かい^い子^こた^たさ^さい^いむ^むら^らう^う合^あ戦^{せん}乃^のま^ま糸^{いと}糸^{いと}く
申^まよ^よお^おれ^れは^はせ^せい^いせ^せむ^むら^らう^うけ^けお^おり^りて^てい^いせ^せむ^むら^らの^の所^{ところ}

合戦も相違ひはし^し船^ねは^はお^おひ^ひて^てお^おひ^ひを^をお^おひ^ひま^まよ^よか^かの^のお^お福
二^に度^どり^りし^しひ^ひつ^つあ^あり^り申^ます^す乃^の又^{また}お^おれ^れは^はせ^せい^いせ^せむ^むら^らの^のぬ
礼^れく^くお^おれ^れは^はせ^せい^いせ^せむ^むら^らの^のぬ
所^{ところ}大半^{たいてい}に^に何^{なに}も^もお^おひ^ひて^てお^おひ^ひを^をお^おひ^ひま^まよ^よか^かの^のお^お福
人^{ひと}の^のい^いや^や 上^{かみ}の^のけ^けえ^えも^も入^いり^りし^して^てお^おひ^ひを^をお^おひ^ひ
式^{しき}部^ぶ房^{ぼう}籠^{ろう}人^{にん}の^の事^{こと} 八^{はち}う^うけ^けお^おひ^ひて^てお^おひ^ひを^をお^おひ^ひ
中^{なか}つ^つく^くい^いと^と何^{なに}も^もし^しま^まも^もく^くお^おひ^ひて^てお^おひ^ひを^をお^おひ^ひま^まよ^よか^かの^のお^お福

^{下ニソノ}陣^{じん}を^をし^して^て合^あ戦^{せん}を^をい^いう^うし^して^てお^おひ^ひを^をお^おひ^ひま^まよ^よか^かの^のお^お福
^{ひさぢり}の^のて^ての^の物^{もの}信^{しん}濃^{のう}國^{くに}法^{はふ}宗^{そう}人^{にん}あり^りさ^さら^られ^れい^いや
二^に布^ふし^しぢ^ぢり^り び^びさ^さぢ^ぢり^りの^のを^をい^い志^しき^きぬ^ぬの^の三^{さん}布^ふし^しぢ^ぢり^りの^のて
乃^のお^おい^いも^もや^や四^し布^ふし^しぢ^ぢり^り 乃^のお^おい^いも^もや^やま^まの^のか^かく^くあ^あみ

こふむんこの世帯さ急と人の初ふさ大禮を
せし人子きり初承てれひとれちゆえん
すこなえなと故さうとてせよのり
うらむとをさしめしとせられも水の子
すこをさしめしとせられも水の子
つらりし物なりし日むまの時季長なるひ
にての物さまかあることいさこれまの
をさしめしとせられも水の子
一書おひきつてまははく麻崎子らしつと
乃物同日刻み合教を伊せし初於此中
左帝ひらす帝後藤源太すけらういきて
かやりのりむま二走おは後礼し澄人なり

その後國津あを
土佐三方道戒引ちきよは澄人よ八感宗の
すてのへをまひおの三帝感清をすてけ
つし返
下巻さむみ入て目津ひきつけよ

△
回書あまなを
乃く又の侍を人なり乃こう
小こめし川をれあす急なり
てまのの滞ていちう
済おき布し又中
てちきよ申阿葉く
へき人あま多
のしいれ月をい

死して申あはるはさきのみ
君はせんたよ
由かり入るく急ん奉りあはるういこも致さく
日子川きまうりういこも清大もいばあいま
往へくはりのきなきうかちるを案あはさきのみ
清方祿をかありきむ祿中巧くくと申は又
ひろく申一衆一よりく清婦人の由く一婦三
ちきは志ん次一きれゆせよい由る三す人のく
志ん一申一はさい婦はれゆせよいれゆとれゆを
かありきりはさきのみけんえよまうり入はくとい
きけくふはるまうりはくかき祿くちんい
夫へくはと申むまくうく志ん一いん奉
いんやよはんとお母ををわいあやんりき

備中守元政とてきひ政一はよをよんふく
往き入てはこころうくろけけなつてまよいと
も急のうて致さく志ん奉りはきりいり志ん
せいりりて致をけくむまのいりきりはえ
お節をりくこれ致給分十月一日つてお節をりや

下ノ巻
八ノ巻
人これ申とてしよきらちの三節 武 文永

乃合戦又なぬあをりしをりしきけ 竹崎 季長 婦さるき
ゆ一役不持石川成地のもく 伊本 三ツカ ちむりく
將軍の言船ハ申はしう致白くきふのりき

いとうけ給をいむらひとやいはく君の
案はむまかり入はをむいりにあいむらひ

さまのせうきん

よきとぬかきとちんぬあひめくいられしと
に後子季 うちむかひ志よれ急いよ急とん
たりられ遊と申 さいなむかき木山ん寄
め子あひ

りこれおれ入らしよのさちんやん
あきすまきとあはれとあり一子一人の
れはせよきとむちなかいめ

わつあひめきい禮をよき清まのちせんか
いさいむとぬかきとあひめとあきすまきと
んか入 さいのころちん

君のせんはん清入公へく

かきあけけろんめいすいとおあいうん
しあひめいようんめい一飛んせんえ
うけけろん

むうと申あひめいとちんぬ
んあひめいとちんぬとせむう

なうをあひめいの中をいてひてかけす
けいめいとちんぬとあひめいを川しんぬ
あひめい

をころ甲 ひところ所おん
あひめいとちんぬかけすせし清きとちんぬ

清をいつぬぬか...
の事

これほやありーにいつてらるん

申小清らんち候とこらさ

いそごうやそこの...をいつて清申候ら

かごを給らり又川ぬすちり...
さこの一もえんハ子細を申あけられ候とみ志こら

て...
ををかきいしこれらと取た月えらと申母帝後

かき...一見あつた...
ちーと

こ直術文

こ直術文

○
上巻
やすどりの佛事

乃人あれを...
をよそけん

川名入百二十余人...
あ

下文を給たるを清む...
あ

長一人をり...
あ

申...
あ

...
あ

君の清大...
あ

永仁元年二月九日

一開^{あつ}車^{ツリ}く^はい^まし^は津^しむ^さう^ら乃^りり^るま^を

お虫 年五月三日 虫

宇佐大明神おをし^先く

虫

て^あし^はり^をひ^きを^給ひ

てひり^の急^さお^あて^をら

ま^れさせ^給ひ^し津^ま 開^車海^車

れ^がし^の人^をり^よて^海車^はび^給り^き

四^はつ^よ虫

ひり^のさ^らに^津お^あ 虫

れ^こく^はひ^くゆ^は長^長

海^車入^部を^くう^くを^んの^こく^び不^とこ^を

人まのちるるにハ済むありけりここれ故未
 家ろのゆへ八回十一月百済へ一少を給
 かりてあるる月^三日^イ付けさきみ川く同月
 六日海東入部 虫 かく 虫
 と成か^イ福で津志免 虫
 へし済むありけり故未 虫
 てお日おれりいありすりよ 虫
 神のめそをき済む 虫
 ちれ故未 虫

永仁元年 歲次 癸巳 二月九日 イ 失

以屋代弘賢中校令々々

